

平成25年度

大阪市教育局「学校教育ICT活用事業」モデル校

公開授業・研究協議会 資料

平成26年2月14日（金）

大阪市立昭和中学校

参観者の皆さまへ

本日は、本校の公開授業にお越しいただき、ありがとうございます。

参観にあたって、次の点にご留意ください。

1. 授業も含めて、**校内の写真撮影・ビデオ撮影**は、次の点をお守りいただくことを前提に許可します。
 - 撮影した写真や動画は、個人または、所属する機関での研究目的にのみ使用すること。
 - 子どもや教職員が特定できる写真や動画を、ネット上にアップしないこと。これについては、いかなる理由があっても許可できません。
 - 授業風景を動画配信サイトなどにアップしないこと。
 - 教室内の作品についても、個人が特定される原因となりますので、同じ扱いとさせていただきます。

※ 撮影された被写体に係る肖像権に関しては、本人並びに本校に属しております。
注意事項に反し、または非社会的な目的に利用された場合は、法的な手段により取り下げを要求します。
2. 授業中にむやみに子どもに接近するなど、子どもの注意力を阻害するような行動はお控えください。
3. 教室はたいへん混み合います。入口付近に固まらず奥にお進みください。
4. 携帯電話はマナーモードにしてください。
5. 授業中、ICT 機器などが動作不良になった場合、指導者の判断で使用を中止し、授業をすすめる等もありますので、ご理解ください。
6. 休み時間等では、子ども達の動線にお心遣いください。

平成26年1月7日

各 校 園 長 様
各 関 係 者 様

大阪市立昭和中学校
校長 田 積 直 子

平成25年度 大阪市教育局「学校教育ICT活用事業」モデル校

公開授業・研究協議会のご案内

新春の候、貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は本校の教育活動に何かとご理解・ご指導賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、本校では次のとおり公開授業を実施いたします。校務何かとお忙しいとは存じますが、ぜひ多くの皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

- 1 日 時 平成26年2月14日（金） 午後2時25分～5時00分
(受付 午後2時00分から)
- 2 会 場 大阪市立昭和中学校
大阪市阿倍野区桃ヶ池町2-3-17 電話 06-6621-0051
・地下鉄谷町線「田辺駅」下車 南西へ500m
・JR阪和線「南田辺駅」下車 北へ150m

3 時 程

午後2時00分	2:25	3:15	3:30	5:00
受付	公開授業	移動休憩	全体会	
			研究協議	指導講評

4 教 科

- ・数学（1年2組）、社会（2年2組）、国語（3年2組）

5 指導助言

- ・和歌山大学 准教授 豊田 充崇 先生
- ・兵庫教育大学 教 授 佐藤 真 先生

6 参加申し込み

- ・本市教職員の方は、教育センターホームページより online でお申し込みください。
(1月8日（水）より申込受付)
- ・本市教職員以外の方は、大阪市教育局のホームページをご参照のうえ、教育センターまで FAX にてお申し込みください。

大阪市立昭和中学校

《ICT の活用》

授業の場所	☒ 普通教室 ☐ 特別教室 ☐ 体育館 ☐ 運動場 ☐ その他（ ）
授業形態	☐ 講義形式 ☐ 一斉学習 ☒ グループ学習 ☐ 個別学習
ICT 活用の場面	☒ 導 入 ☒ 展 開 ☐ まとめ
ICT 活用者	☒ 指導者 ☒ 児童・生徒 ☐ その他（ ）
ICT 活用の目的	☒ 資料の提示(指導者) ☐ 資料の提示(学習者) ☐ 自分の考えをまとめる ☐ グループの考えをまとめる ☒ 他者との考えの比較・交流 ☐ 学習内容を調べる ☒ 自分の考えを表現する ☐ 学習の振り返り ☐ 記録(写真・動画等) ☐ プレゼンテーション等の作成
活用機器	☒ 電子黒板 ☒ 指導者用タブレット端末(win・iPad) ☒ 児童・生徒用(win・iPad) ☐ その他（ ）
活用コンテンツ	☐ パワーポイント ☐ SKYMENU（マーカー機能）
ICT 活用のポイント	☐ デジタル教科書を使って、立体の切り口の形について考える。 ☐ 教材の提示 ☐ iPadを使って、立体の切り口の形についての变化を考える。 ☐ iPadを使って、課題について考えさせ、発表する

第1学年 数学科 学習指導案

授業者 井上 知貴
坂根 眞一郎

1 学年・組 1年2組

2 単 元 名 数学広場「立体の切り口の形」

3 目 標

- 観察、操作や実験に基づく考察を通して、空間図形の特徴を理解するとともに、立体をとらえるための多面的な視点をもち、空間的な想像力や直観力を高める。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技 能	知識・理解
興味・関心をもち、図形の切断面について考え、楽しく追究することができる。	立方体を3点を通る平面で切ったとき、その切り口を読み取り、その図形になる根拠を説明することができる。	立体の名称がわかったり、切り口を動的にみると、切り口の形が変化することを読み取ることができる。	立体の見取図から空間図形を構成している面の形や辺の長さを正確に読み取ることができる。

5 指導計画（全1時間）

時	主 な 指 導 内 容	ICT 機器
1	立方体を平面で切断したときの切り口の形について考える。（本時）	iPad 電子黒板 ノートPC

6 本時の学習

(1) 目 標

○観察、操作や実験に基づく考察を通して、立体を切断したときの切り口の様相を理解することができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○円柱を見せて、円柱を以下の平面で切ったときの切り口について考える。 ・底面に平行な平面で切る。 ・底面に垂直な平面で切る。 ・斜めに切る。 ○指導者用デジタル教科書や立体模型を使って、円柱を平面で切ったときの切り口について確認する。	・円柱を提示することで、円柱を平面で切ったときの切り口をイメージしやすくする。 ・指導者用デジタル教科書を使うことにより、切り方によって切り口の形が多様になることを実感させる。	電子黒板 指導者用デジタル教科書	【関心・意欲・態度】 立体の切り口の形に関心を持ち、その形を考えようとする。
展 開	○立方体の立体模型を使って、3点を通る平面で切ったときの切り口について考える。 ○2つのグループA、Bの班分けとA、Bそれぞれで行う観察と分析について確認する。 ○学級を問題によって2つのグループA、Bに分けて、観察と分析を行う。 (別紙の図1、図2参照) ○発表	・3点を通る平面で切ることによって、切断面が1つに決まることを説明する。 ・電子黒板に図を提示することによって、自分の役割と今後の流れについて説明する。 ・SKYMENUを使って、ブラウザのブックマークに事前に別紙に記載しているURLを入れている。 ・生徒の進捗をつかむために一人ひとりのiPadの画面を電子黒板に提示する。 ・点を動かすことによって、切り口の形が変化していく様子を考察することができる。 ・AグループとBグループのそれぞれの代表者に自分たちのグループで学んだことをSKYMENUのマーキング機能を使って説明する。	iPad 電子黒板 SKYMENU 学習者機 画面一覧 appleTV	【関心・意欲・態度】 意欲的に問題を解決しようとしている。 【 技 能 】 切り口を動的にみると、切り口の形が変化することを読み取ることができる。

	OA、Bのグループの班員がそろった新しい班を作り、各グループで考えた事柄を持ちより、図3の課題に取り組む。 ○発表	・点を動かすことによって、自分のグループで学んだことを他のメンバーに説明する。 ・SKYMENUのマーキング機能を使って、自分の考えを他のメンバーに説明する。 ・自分の考えを電子黒板に映し出しSKYMENUのマーキング機能を使って説明する。	appleTV	【数学的な考え方】 3点を通る平面で切ったとき、その切り口を読み取り、その図形になる根拠を説明することができる。
まとめ	○ワークシートに本時で学んだことと感想を記入する。			【知識・理解】 本時の学習をまとめることができる。

使用サイト名 → GC/html5

http://www.auemath.aichi-edu.ac.jp/teacher/ijima/gc_html5/

iPad 生徒機画面

図1

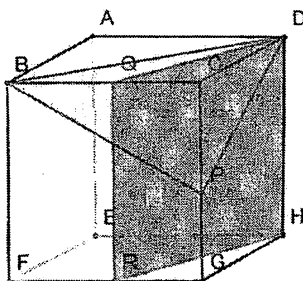
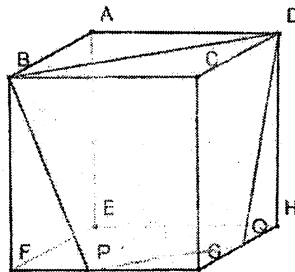
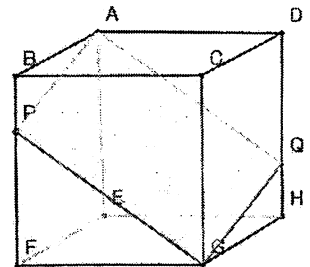


図2



課題



() 組 () 番 氏名 ()
 立体の切り口の形【グループA】

席番号

①(1)3点B, D, Pを通る平面で図1の立体を切ったときの切り口を図1に書きこみましょう。

(2)切り口は になる。

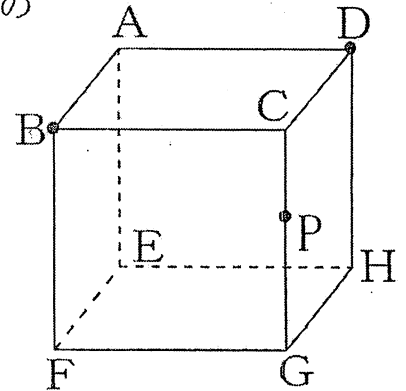


図1

②立方体を図1のように、2点B, Dと辺CG上の点Pを通る平面で切ります。点PがCからGまで動くとき、切り口の形はどのように変わっていくのでしょうか。

③(1)3点D, Q, Hを通る平面で図2の立体を切ったときの切り口を図2に書きこみましょう。

(2)切り口は になる。

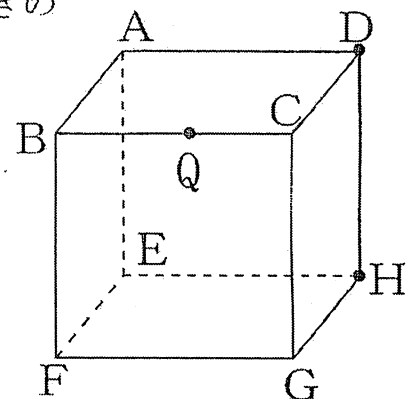


図2

④(1)図1から、立方体を切断したとき、切り口の向かい合っている辺QDと辺RH、辺QRと辺DHの位置関係はどうなっているだろうか。

辺QDと辺RHは

辺QRと辺DHは

(2)辺QDと辺RH、辺QRと辺DHを含むそれぞれの平面の位置関係はどうなっていますか。

() 組 () 番 氏名 ()
 立体の切り口の形【グループB】

席番号

- ①(1)3点B, D, Pを通る平面で図1の立体を切ったときの切り口を図1に書きこみましょう。

(2)切り口は になる。

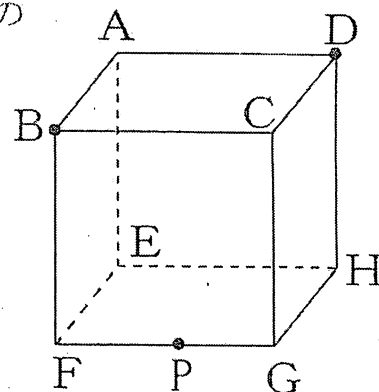


図1

- ②立方体を図1のように、2点B, Dと辺FG上の点Pを通る平面で切ります。点PがGからFまで動くとき、切り口の形はどのように変わっていくのでしょうか。

- ③(1)図1から、立方体を切断したとき、切り口の向かい合っている辺BDと辺PQの位置関係はどうなっているだろうか。

辺BDと辺PQは

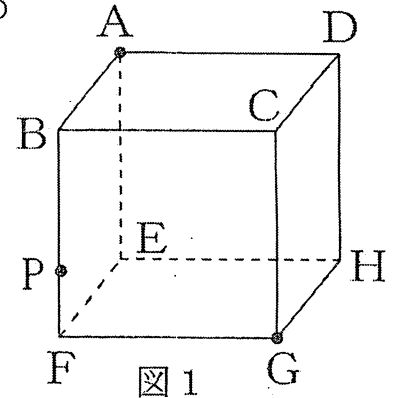
- (2)辺BDと辺PQを含むそれぞれの平面の位置関係はどうなっていますか。

() 組 () 番 氏名 ()

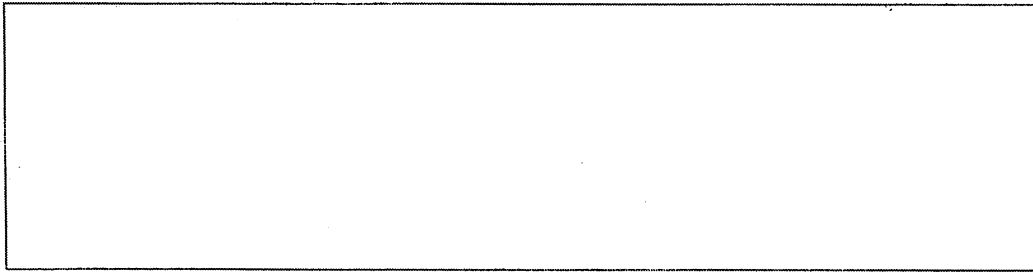
立体の切り口の形【課題】

- ①(1)3点A, P, Gを通る平面で図1の立体を切ったときの切り口を図1に書きこみましょう。

(2)切り口は になる。

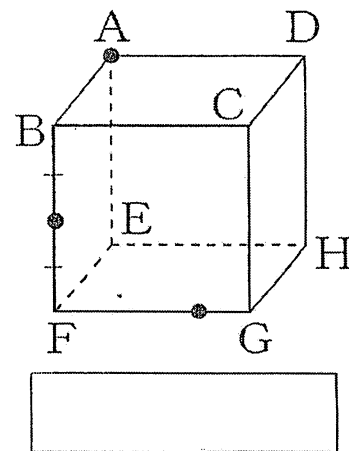
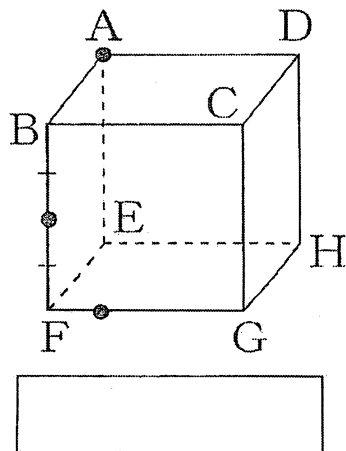


- ②立方体を図1のように、2点A, Gと辺BF上の点Pを通る平面で切ります。点PがBからFまで動くとき、切り口の形はどのように変わっていくでしょうか。



～挑戦問題～

- ②までできた人は、以下の3点を通る平面で切断したとき、切り口はどんな図形になるのか、の中に図形の名称を書いてみよう。



大阪市立昭和中学校

《ICT の活用》

授業の場所	☒ 普通教室 ☐ 特別教室 ☐ 体育館 ☐ 運動場 ☐ その他()
授業形態	☐ 講義形式 ☐ 一斉学習 ☒ グループ学習 ☐ 個別学習
ICT 活用の場面	☒ 導入 ☒ 展開 ☐ まとめ
ICT 活用者	☒ 指導者 ☒ 児童・生徒 ☐ その他()
ICT 活用の目的	☐ 資料の提示(指導者) ☒ 資料の提示(学習者) ☐ 自分の考えをまとめる ☒ グループの考えをまとめる ☐ 他者との考えの比較・交流 ☒ 学習内容を調べる ☒ 自分の考えを表現する ☐ 学習の振り返り ☐ 記録(写真・動画等) ☐ プレゼンテーション等の作成
活用機器	☒ 電子黒板 ☐ 指導者用タブレット端末(win・iPad) ☒ 児童・生徒用(win・iPad) ☐ その他()
活用コンテンツ	☐ AppleTV ☐ 電子黒板 ☐ iPad ☐ SKYMENU ☐ Keynote
ICT 活用のポイント	☐ タブレットPCでいろいろな歴史新聞を見て、そこから課題を見つける。 ☐ タブレットPCを活用し、課題解決に必要な知識・情報を得る。 ☐ 班ごとに議論した仮説や根拠を電子黒板上に送ったレポートをもとに発表する。

第2学年 社会科 学習指導案

授業者 西 真一

1 学年・組

2 年 2 組

2 単元名

課題を解決する力を培う学習
(歴史新聞を題材に疑問点を見つけ、考察する)

3 目 標

- ・歴史的事象に対する関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。
- ・主体的に学習に取り組む態度を培うため言語活動を取り入れ、自分自身の意見をわかりやすく発表できる。
- ・課題解決に向けて筋道をたてて理論的に考察できる。
- ・情報活用能力の育成をはかる。

4 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
○さまざまな事柄に対して興味関心を持ち、課題を見つけることや課題を解決しようと積極的に取り組もうとする。	○疑問点に対する要因を考えだすことができる。 ○課題解決に向け、協働でリサーチして解決に導く。	○疑問点と解決の関係が系統化されるようにまとめる。 ○自分自身の言葉で他者にわかりやすく表現する。	○課題に応じた知識を得る。 ○他者の意見を自分の意見と対比することにより深い理解を得ることができるようになる。

5 指導計画（全 5時間）

時	おもな学習活動	ICT 機器
1	自らの意見を自信を持って発表できるようにする。	電子黒板 書画カメラ
2	課題解決に向けて原因を調べる。また、課題解決に向けて考える道筋を明確にする。	電子黒板 書画カメラ
3	活動班に分かれて、題材とする作品を1つ選ぶ。 選んだ作品から疑問点を挙げる。	電子黒板 iPad AppleTV で発表
4 本時	・ 前回挙げた疑問点を発表する。 ・ 疑問点を協働してブラウザで調べる。 ・ 調べたことを話し合い、疑問点とその解決を系統的にまとめる。	電子黒板 iPad で調べる AppleTV で発表
5	・ 疑問点とその解決をまとめたものを班ごとに発表する。	電子黒板 AppleTV で発表

6 本時の学習

(1) 目 標

- 疑問点に対する要因を明らかにする
- 疑問点に対して協働してブラウザで調べる
- ブラウザで調べたことを話し合い、疑問点とその解決を系統的にまとめる

(2) 展 開

	主な学習活動	ICT活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○前回の授業で、挙げた疑問点を班ごとに発表する	○疑問点を AppleTV で電子黒板に映す	AppleTV SKYMENU 電子黒板 iPad	【技能】 ・ 自分自身の言葉で 他者にわかりや すく表現できて いるか
展 開	①班ごとに疑問点に対する要因を 明らかにする			【関心・意欲・態度】 ・ 議論に積極的に参 加できているか ・ 他者の意見を尊重 できているか 【思考・判断】 疑問点に対する 要因を多面的に とらえられるか
	②疑問点に対して自分の意見を出 す			【思考・判断】 ・ 疑問点をさまざま な立場から考察 できる 【関心・意欲・態度】 ・ 議論に積極的に参 加できているか

ま と め	③疑問点をブラウザで調べる	○ブラウザで疑問点の 解決となることを協働 でリサーチする	SKYMENU	【技能】 ・課題に応じた知識 を得る
	④ブラウザで調べたことを疑問点 とその解決として系統的につなが るように話しあう	○疑問点とその解決を 系統的にとらえる ○Key note にまとめ る	SKYMENU Key note 電子黒板 AppleTV	【知識・理解】 ・他者の意見を自分 の意見と対比す ることでより深 い理解を得るこ とができたか ・自分自身の言葉で 他者にわかりや すく表現できて いるか

電子黒板へ送る様式

シート① 疑問点	シート② 疑問点とその解決

シート①は前時（3時）で作成

シート①を本時（4時）で発表

シート②を本時（4時）で作成

シート②を次時（5時）で発表

大阪市立昭和中学校

《ICT の活用》

授業の場所	☐ 普通教室 ☐ 特別教室 ☐ 体育館 ☐ 運動場 ☐ その他（ ）
授業形態	☐ 講義形式 ☐ 一斉学習 ☐ グループ学習 ☐ 個別学習
ICT 活用の場面	☐ 導入 ☐ 展開 ☐ まとめ
ICT 活 用 者	☐ 指導者 ☐ 児童・生徒 ☐ その他 (Skype 交信先 岩手県釜石市 岩崎昭子氏・北村弘子氏・藤原マチ子氏)
ICT 活 用 の 目 的	☐ 資料の提示(指導者) ☐ 資料の提示(学習者) ☐ 自分の考えをまとめる ☐ グループの考えをまとめる ☐ 他者との考えの比較・交流 ☐ 学習内容を調べる ☐ 自分の考えを表現する ☐ 学習の振り返り ☐ 記録(写真・動画等) ☐ プレゼンテーション等の作成
活 用 機 器	☐ 電子黒板 ☐ 指導者用タブレット端末(iPad) ☐ 児童・生徒用(iPad) ☐ その他(Apple TV)
活用コンテンツ	○ iBooks Author ○Apple TV ○SKYMENU ○ Skype ○iPad ○縦書きカメラ
ICT 活用のポイント	○「電子書籍作成ツール」(iBooks Author)により学びの足跡をたどる。 ○テレビ会議システム(Skype)を活用し、リアルタイムで共同取材をする。 ○動画により、当事者意識をもって情報と向き合い、双方向の交流をする。 ○縦書きカメラを活用し、情報を発信する。

第3学年 国語科 学習指導案

授業者 植田 恭子

1 学年・組 大阪市立昭和中学校 3年2組 (男子 15 名・女子 16 名 計 31 名)

平成 26 年 2 月 14 日(金) 第 6 時限

2 単 元 名 帯単元「防災・減災を考える」

わたしたちの防災・減災

3 目 標

○東日本大震災に関する情報と主体的に向き合い、「他人事」でなく「自分事」として情報をとらえ、他者・自己・社会との「対話」を重ね、思考を深める。

○「他者」と言葉を介して出会い、自己を相対化し、自分の考えを創りあげていく。

○「今」の情報を読み説き、物事の本質をとらえ、社会に参画する意識を高めるとともに、自らの生き方に生かしていこうとする態度を育てる。

4 帯単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・目的や場面に応じ、立場や考えの違いを踏まえて話したり、考えを比べながら聞いたり、相手の立場を尊重して話し合ったりしようとしている。	・場の状況や相手の様子に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すとともに、自分のものの見方や考え方を深めている。	・社会生活から課題を決め、情報を活用しながら、自分の考えを深めようとしている。	・文章を読み、人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもとうとしている。	・目的や場面に応じ、話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて注意している。

5 単元の指導計画

(1) 2年3学期 …自分事としてとらえる

○東日本大震災に関する情報を読み取り、自分とは異なる見方、感じ方、考え方について、慮り、伝え合い考える。

○防災・減災について、多様な情報を収集・活用し、根拠を示しながら、それぞれの考えを伝え合う。

・「ママの帰り 待ってる」(2011年3月31日付読売新聞) 愛海ちゃんの情報をもとにひきよせて読む。「ママへ。いきているといいね おげんきですか。」

・途上国の少年の写真を読み、プレゼントは何がいいかをみんなで考える。(『たんじょうび』レイフ・クリスチャン・岩崎書店)・愛海ちゃんの思いを想像する。・愛海ちゃんへのプレゼントは？ 小学校へ入学する愛海ちゃんへのお祝いの言葉を考える。

・東日本大震災から2年 2013年3月11日の記事を読む。

(2) 3年1学期 …それぞれの持ち場で

○東日本大震災発生後、直後、次の日、一週間後、一カ月後、陸・海ではどのようなことが起こっていたのか。それぞれの持ち場で、どのような思いで、どのような行動をとっていたのか。

・メディアは3月11日をどのように伝えているのか。iPadを活用し、調べる。

・畠山重篤さんに関する記事を読み比べる。・「それでも海しかない」畠山重篤さんに関する記事を比べて読む。

・読売新聞社・川西勝 編集委員から、お話をうかがい、防災・減災について自分の考えをもつ。川西記者からお話をうかがい、防災・減災について自分の考えをもつ。災害報道、送り手の思い、報道に携わる人間としての葛藤を聞き取る。

・内航船「硯海丸」に関する情報をiPadで検索し、調べる。

・内航船「硯海丸」がロシア船を救助した出来事をニュース原稿にまとめる。・内航船についての「問い」をもつ。(総合的な学習の時間 TV会議システム(Skype)交信の事前・事後学習)

(3) 3年2学期 …検証「釜石の奇跡」

○「釜石の奇跡」について、検証する。

・NHK シンサイミライ学校 いのちを守る特別授業「私たちがふるさとを守る～釜石の奇跡～」を視聴する。・心に残ったこと、新たに知ったこと、「いのち」を守るとはどういうことか、「釜石の奇跡」とは何か。自分の言葉で説明する。どうして「釜石の奇跡」が起きたのか。

・東京五輪と東日本大震災の復興など、現在の被災地の情報を読む。(朝日新聞デジタル for school)

・釜石と長い間関わってこられた産経新聞社・北村理 編集委員に共同取材をする。・北村記者への「問い」を考える。「問い」を共有化する。・聞き取りメモをとりながら聞く。・さらなる「問い」をなげかける。

・釜石東中学校の生徒の作文をiPadで読む。・「釜石の奇跡」について検証する。

(4) 3年3学期 …「わたしたちの防災・減災」 本単元

6 3年3学期「わたしたちの防災・減災」の指導計画(全6時間)

時	主 な 指 導 内 容	ICT 機器
1	・東日本大震災3.11から3年/阪神淡路大震災に関連した情報を読む。 ・絵本『ハナミズキのみち』(浅沼ミキ子/文・黒井健/絵・金の星社)を読み聞かせする。(生徒一人一冊の集団読書のスタイル) ・絵本『ハナミズキのみち』に関するWeb情報を読む。 ・絵を描いた黒井健さんへのインタビュー記事(「学校図書館速報」2013年10月1日 こどもの本)を読む。 ・作者浅沼ミキ子さんへのメッセージを書く。 ・絵本『ハナミズキのみち』を読んで、感じたこと・思ったこと・考えたことを伝え合う。	iPad Apple TV 電子黒板

2	・学びのあとをどのような形で残すかを考える。 (⇒新聞の形式でまとめる。3月11日の出来事・ひと欄・提言・短歌・学びの振り返りなどの紙面構成) ・朝日新聞デジタルで「天声人語」を読む。天声人語の短歌を受け、3.11を五・七・五・七・七で詠む。 ・被災地・岩手県釜石市の岩崎昭子さんに関する情報をWeb上から収集し、読む。・それぞれに岩崎さんへの「問い」をもつ。 ・岩崎さんへの「問い」をグループでしぼり込む。 ・共同取材の仕方について確認する。	iPad Apple TV 電子黒板
3	・「釜石あの日あの時甚句」(釜石東中学校・鵜住居小学校編、いのり編あなた)を読む。 ・心に響いた言葉を書き出し、どうして心に響いたのかを考える。 ・「甚句」について調べる。 ・「釜石あの日あの時甚句」を読んで、3.11について改めて、思ったこと、感じたこと、考えたことを書く。 ・「甚句」に対して、五・七・五・七・七の返歌を創作する。 ・どのような思いを詠んだのかを書く。	iPad Apple TV 電子黒板
4 本 時	・岩崎昭子さんとTV会議システム(Skype)で交信し、共同取材をする。 ・岩崎さんらからの答えを受けとめ、創作した短歌を推敲し、岩崎さんらへ送る。	電子書籍作成ツール (iBooks Author) iPad 電子黒板 Apple TV TV 会議システム (Skype)
5	・リアルタイムの共同取材について検証する。 伝えることの難しさ、人と人とのコミュニケーションのあり方について考える。・直接情報と向き合うことの意味についても考える。 ・地域の防災、減災、自分たちに何ができるかを考え、伝え合う。 ・防災・減災についての提言をまとめる。 ・岩崎さんの「ひと欄」を書く。	iPad Apple TV 電子黒板
6	・防災・減災についての学びを新聞形式でまとめる。 ⇒「卒業論文レジュメ」とあわせて「卒業論文集」という形で情報発信をする。	iPad 電子黒板

7 本時の学習

(1) 目 標

○「対話」「交流」を通して、情報から「情」を読み取り、自らの思いを発信する。

(2) 展 開

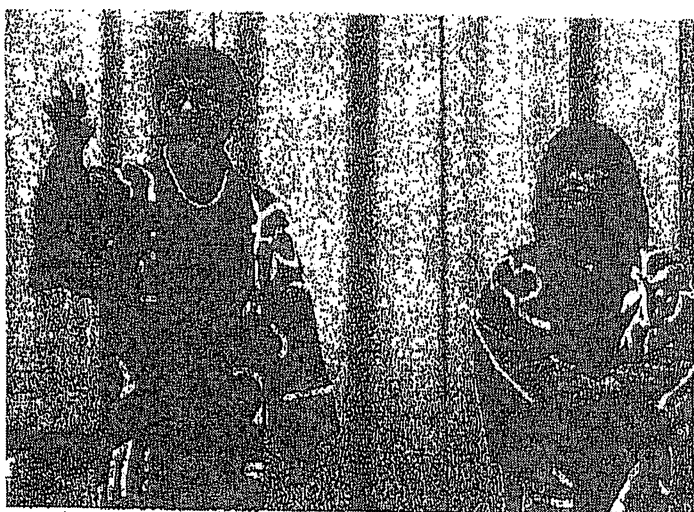
	主な学習活動	ICT活用のポイント	使用機器 コンテンツ	評価の観点
導 入	○2年3学期からの帯単元の学習活動について、振り返りをする。 ○帯単元のめあて、本単元で取り組むべきことを確認する。 ○本時のめあてを確認する。	・「電子書籍作成ツール」(iBooks Author)を活用して、帯単元の学びの足跡を俯瞰的にとらえるようにする。 ・時系列での振り返りを通して、本時のめあてと学習活動を明確にする。	「電子書籍作成ツール」 (iBooks Author) iPad Apple TV 電子黒板	【関心・意欲・態度】 目的や場面に応じ、立場や考えの違いを踏まえて話したり、考えを比べながら聞いたり、相手の立場を尊重して話したりしようとしている。

展 開	○取材のポイントをおさえる。 ○被災地・岩手県釜石市で復興に取り組む「宝来館」の岩崎昭子さんに共同取材をする。 (各グループの問いを共有化する。) ○各グループから質問をする。 ○岩崎さんからの答えを「聞き取りメモ」をとりながら聞く。 ○岩崎さんの答えに対して「次なる問い」をもつ。 ○それぞれが考えた「問い」をグループで知恵を出し合い、ひとつにしぼり込む。 ○岩崎さんへ次なる質問を重ねる。 ○岩崎さんからの答えを聞く。 ○前時に創作した短歌を再構成する。 ○短歌で思いを送る。	・ Apple TV でポイントを表示する。 ・ Skype でのリアルタイムの発信により、直接情報（第一次情報）を得ることが出来、情報と主体的に向き合うことが可能になる。 ・ 相手の反応も感じとることができ、相手意識をもった交流ができる。 ・ 1対1の使用を前提としているテレビ会議システムを、多人数で活用するため共同取材というスタイルで、連続性のある言語活動（問い～答え）を展開する。 ・ 限られた時間、リアルタイムでの交流が、直接情報のもつ意味、コミュニケーションのあり方を考えることにつながる。 ・ 文字情報だけでなく、映像・動画によって、身振り、手振りも含めたトータルな情報による双方向が可能になる。 ・ 遠隔地とつながっていること、あわせて不特定多数でなく、自分たちのために向けられた情報であることを、実感でき、最新の情報の交換は学びへの意識を高める。	iPad 電子黒板 Apple TV iPad 電子黒板 TV 会議システム (Skype) iPad 電子黒板 TV 会議システム (Skype) 縦書きカメラ	【話す・聞く能力】 場の状況や相手の様子に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話している。 【言語についての知識・理解・技能】 目的や場面に応じ、話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて注意している。
ま と め	○取材活動の振り返りをする。 ○次時の予告。		iPad 電子黒板 Apple TV	

釜石あの日あの時甚句

岩手県釜石市で民話の語り部団体「漁り火（いさりび）」の会に所属していた北村弘子（号寛左）と藤原マチ子（同右）は東日本大震災後「釜石あの日あの時甚句つたえ隊」を結成、相撲甚句の節回しで震災の悲劇と教訓を伝える活動を始めた。

口上と手話によるサインボーカルを北村が、歌の朗唱を藤原が担当する。



釜石東中学校や鶴住居（うのすまい）小学校の児童・生徒が過去の津波災害の教訓を生かし、無事避難することができた「釜石の奇跡」。行方不明になった夫を探し続け、悲しみに暮れつつも前向きに生きようとがく女性。こうした震災のエピソードを基にこれまでにより作品を生み出した。

親しい人を失った悲しみ。鎮魂の祈り。そして、子どもたちに託される未来への希望。歌に込められた想いが聴く人の胸を打つ。

地元住民の中には「思い出したいくない、早く忘れたい」と言う人も多い。

二人はそうした心情に配慮しつつ「失われてしまった大切なものを、歌で残したい」と語る。「歌なら子どもでも大人でも、いつでも好きなきに歌える。そうして時には自分の大切な人を思い出す時があってもいい。亡くなった人を思っ泣くのは悪いことじゃない。普段抑えてつけている気持ちを表に出してあげることも、前向きに生きていく力につながっていくのではないか」

藤原の実家は相撲と縁が深い。

母は藤原が幼いころいつも相撲甚句を口ずさんでいた。それを耳で覚えた。正式に甚句の指導を受けたことはない。何度も聞いた母の歌、その節回しは、しっかりと身体に刻み込まれている。

相撲取りだった兄を震災で亡くしたが、その面影は甚句の中に生きている。

歌は当初「復興甚句」と名付ける予定だった。しかし、復興は未だ道半ば。

「仮設住宅から最後の一人が出て行き、生活再建するまで『復興甚句』の名称は使わない」とそう決めた。

同時に10作目の制作を凍結。釜石の復興が成ったとき、それを言祝ぐ10作目の甚句を作り、その時点で「復興甚句」の名乗りを許すことにした。

そのときまでは「釜石あの日あの時甚句」。北村と藤原は、時代を越え場所を越えて伝わっていく歌の力を信じている。

写真や動画、文章だけでは伝えきれない何かを「歌で伝えられる」と。

釜石あの日あの時甚句つたえ隊

問い合わせ・連絡は旅館「宝来館」まで

〒026-0301

岩手県釜石市鶴住居町20-93-18

TEL 0193-28-2526

FAX 0193-28-1288

ホームページ <http://houraikan.jp/>

釜石あの日あの時甚句

〈釜石東中学校・鶴住居小学校編〉

(前唄)
よくぞ 越えました 津波を越え
た 嬉し 涙の 釜石甚句

あの日 あの時
甚句に 詠めばよ
時は 三月十一日の
忘れもしない 大震災
千年 一度の 大地震
誰が 思うか あの津波

名所 根浜の 海岸を
背にして 建つた 学校は
あの日 津波に 襲われて
今は 姿は 見えすとも
東中学 鶴の小よ

生徒 児童の 六百人
手に 手をとって 高台へ
早く 早くと 声を掛け
我に 続けと 皆を呼び
生きる 生きる と 叫ぶ声
最善 尽くして 避難して
命を 守りし 子供達
他人(ひと)は 奇跡と 言うけ
れど
日頃の 教訓 心得よ

『一つ 想定 といわれず』
『一つ 最善といふ事』
『一つは 率先 避難せよ』

親は 子供を 信じつつ
子供は 親を 信じつつ
自分の 命を 守る事
そこに 生まれし この言葉
『命でんでんこ』

守り 守られ 生き抜いて
命が 命を 紡ぎ出す
未来を 作る 子供達
褒めてやりたや 希望の子等よ

平成二十四年十二月二日
北村弘子・藤原マチ子共作

〈いのり編あなた〉

(前唄)
貴方 貴方に 会いたくて……
祈る 今日も 来ました 根浜の
海へ

あの日 あの時
甚句に 詠めば
時は 三月十一日の
忘れもしない 大震災
千年 一度の 大地震
誰が 思うか あの津波

あの日も 同じ 朝でした
いつもの 笑顔を 見送って
夕べに 戻ると 待ち続け
未だに 私は 待ちぼうけ

せめて 爪の ひとかけら
せめても 髪の毛 一本と
占い人にも 訪ねたが
貴方は 未だに 帰らない

あなたの 笑顔が 恋しくて
あなたの 声が 聞きたくて
せめて 夢でも 会いたいと
今日も 写真に 祈ります

来年 退職 したならば
二人で 温泉 行こうねと
あの日 話した 約束は
今は 叶わぬ 夢なのか

たとえ 空の 彼方でも
たとえ 海の 彼方でも

貴方が 側に いる事を
二年の 月日で 知りました
貴方は 私の 中にいる

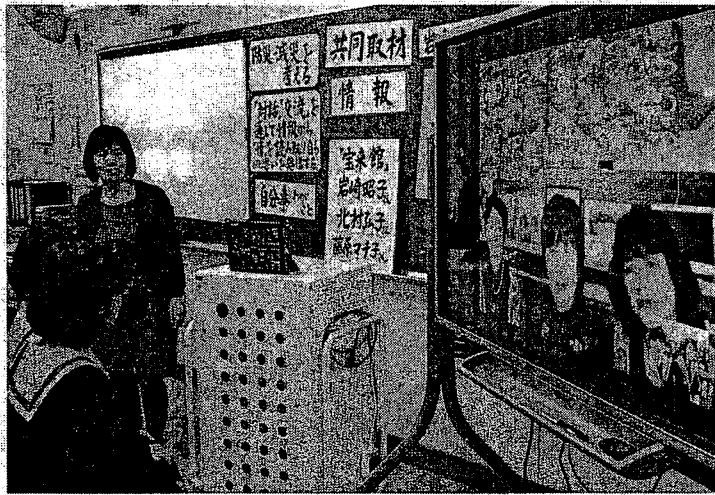
又会う その時 その日まで
あなたに 守られ 私は生きる

平成二十五年二月二十一日
北村弘子・藤原マチ子共作

東日本大震災 心に留めて

テレビ電話で体験談聞く 阿倍野区の中学生 釜石の被災者に

防災教育の一環として、
大阪市立昭和中学（同市阿倍野区）の3年生31人がテ



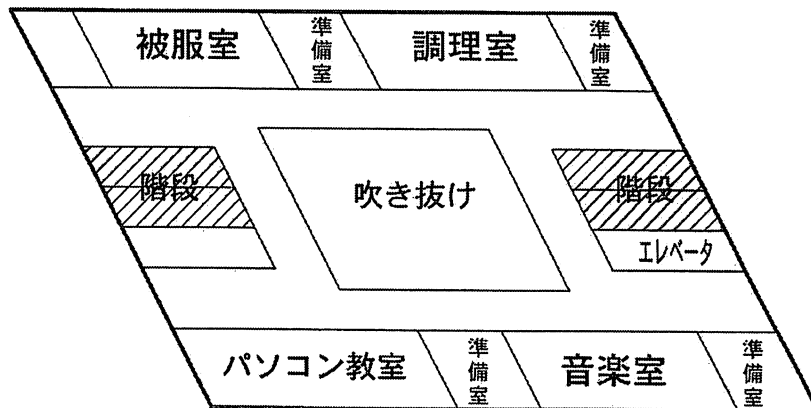
テレビ電話で岩手県釜石市の被災者に体験などを聞く生徒ら＝大阪市阿倍野区

に体験談や復興状況を聞いた。
テレビ電話は、約600人が亡くなった釜石市鶴住居地区と結んだ。海岸近くで旅館を営み、津波に巻き込まれたが奇跡的に助かった岩崎昭子さん（57）が登場。
生徒は約50分間テレビ電話を通じて岩崎さんに質問した。まず、被災体験について問われた岩崎さんは「一度逃げたら、戻ってはいけないことは分かっていたが、間に合つと思って、逃げ遅れた人を連れにもどった。津波に巻き込まれ、体が沈んだときは何が何だか分からなかった」と語った。

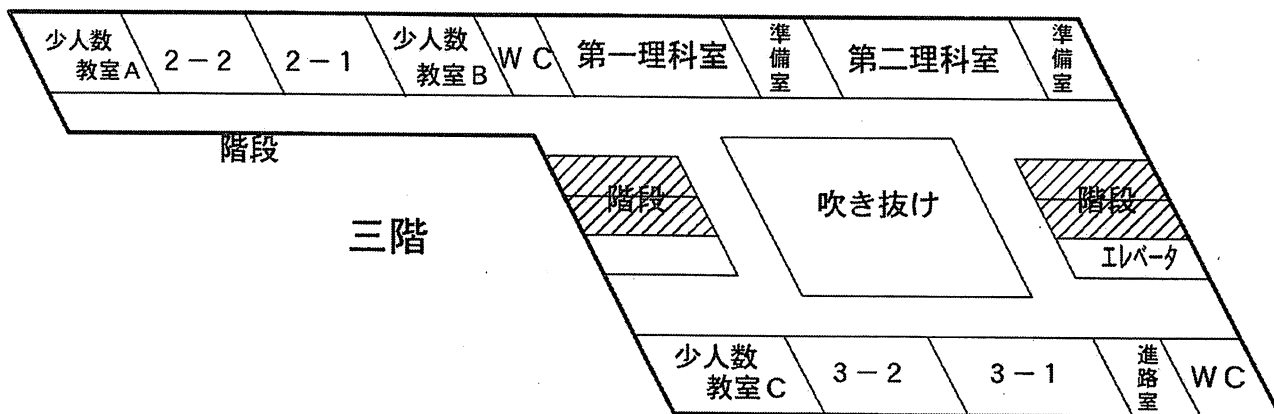
被災地復興の進捗状況の質問に対しては「ようやくガレキが片づいた」と語り、「震災前から海岸でスポーツを楽しんできた人々や地域住民が協力し、宝の海を取りもどそうとしている」と紹介した。
また、自らの旅館の再建について、「津波を体験して生きることへのこだわりが強くなった。その気持ちを故郷の再建に注ぐと、だれでもが集まりやすい場所として開放している」と述べ、毎年、夏に海岸で行われている指揮者の佐渡裕さん（52）による鎮魂演奏会などを紹介した。
続いて、岩崎さんの友人の女性2人が復興への願いを込めた相撲甚句をうたい、釜石の子供たちが避難した「釜石の奇跡」の様子を披露した。

校舎案内図

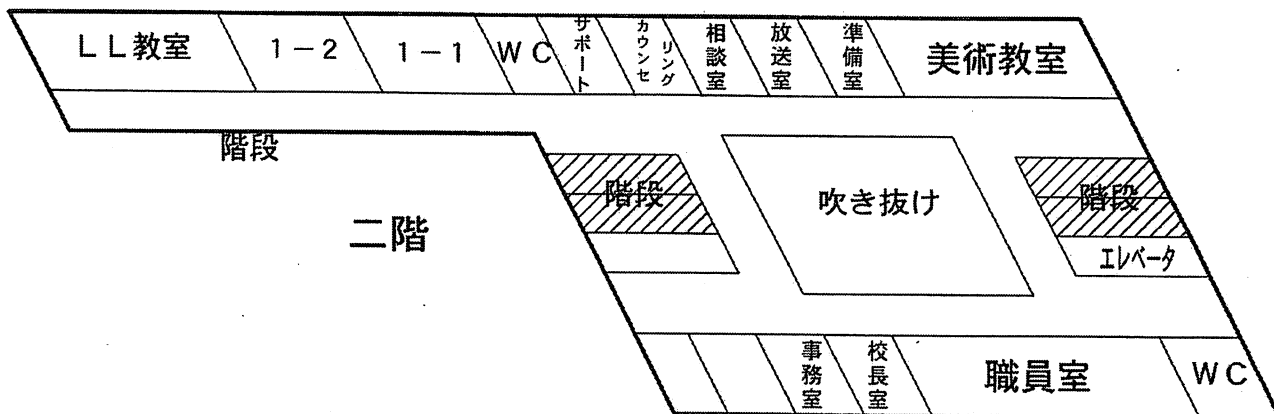
四階



三階



二階



一階

